

平成28年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番号	28-事前-1						
課題名	「おかやま黒まめ」のマルチ栽培と畦間灌水による高品質安定栽培法の確立						
課題の概要	黒大豆のマルチ栽培に適した灌水技術を確立し、おかやま黒豆の高品質安定生産に資する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	有効性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	総合評価	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. 高品質な黒大豆の安定生産が可能となるとともに、商品収量が増加することにより、「おかやま黒まめ」のブランド力強化と農業者の所得増大が期待できる重要な課題である。</p> <p>2. 天候に影響を受けやすく、障害粒発生を防ぐ技術の確立は重要と認識しており、しっかりとした比較試験を実施して欲しい。</p> <p>3. 倒伏回避のための摘心作業の必要性、マルチ栽培の収量性をしっかりと検証し、資材費投入に対する収益性等の経営的評価が必要である。</p> <p>4. 地域や場所によって土壌の状態や特性(保水性など)は様々である。畝間灌水に必要な圃場の水平度や、気候変動に対する有効性を明らかにし、幅広い条件に対応できるような汎用性の高い栽培ノウハウの確立を期待する。</p>						

番号	28-事前-2						
課題名	樹勢の客観的評価に基づく「おかやま夢白桃」の安定生産技術の確立						
課題の概要	「おかやま夢白桃」の樹勢を評価する指標を作成する。さらに、樹勢が低下した「おかやま夢白桃」で樹勢を回復するための対策技術を明らかにする。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
	有効性	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
	効率性・妥当性	0人	6人	0人	0人	0人	4.0
	総合評価	4人	2人	0人	0人	0人	4.7
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山オリジナルの白桃の連続出荷が可能となることで、ブランド力強化と農業者の所得増大に繋がる重要な課題である。</p> <p>2. 新規就農者にも習得可能な①樹勢を客観的に評価する指標の作成、②当該指標に基づく土壌・施肥管理方法と栽培方法を5年後にしっかりと提示することを強く期待する。</p> <p>3. 樹勢低下の要因の解明は急がれるが、肥料以外の要因についても考慮して、樹勢の低下を明確にする指標の作成を、科学的に解明して欲しい。</p> <p>4. 出荷時期の適正化は品種本来の品質向上に役立つと考えられる。品質向上とともに新たに加工分野の道も拓かれるものと思う。</p> <p>5. 岡山の桃のブランド力をさらに高めるため、「岡山ならではの」となるような技術の向上に力を入れて欲しい。</p>						

番号	28-事前-3						
課題名	アスパラガスの優良品種選定と早期立茎による安定生産技術の開発						
課題の概要	現主力品種の代替品種を選定する。また、選定した品種を用い、露地栽培における茎枯病対策として有効な早期立茎による安定生産技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	4人	1人	1人	0人	0人	4.5
	有効性	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
	効率性・妥当性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	総合評価	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
助言・指摘事項等	<p>1. アスパラガスの各県ブランドが確立されつつあり、岡山県においても優良品種が求められている。現行の主力品種は種苗メーカーの事情で入手困難な状況になっており、生産現場では代替品種の選定が急務となっている。</p> <p>2. 茎枯病が重要病害となっているが薬剤耐性菌発生の問題等で薬剤に頼らない防除法を開発する必要がある。早期立茎による安定生産は重要で緊急の課題である。</p> <p>3. 早期立茎に関する研究は、他の機関ですで行われていると思われるので、情報を収集して効率的に行って欲しい。</p>						

番号	28-事前-4						
課題名	夏秋雨除けトマト栽培における秋期増収技術の開発						
課題の概要	秋期まで草勢を維持しやすい穂木・台木品種の組み合わせ、着果管理法及び栄養管理法を明らかにし、秋期収量を増加できる栽培技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
	有効性	0人	6人	0人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	総合評価	0人	6人	0人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. 秋期まで高品質トマトの安定供給が可能となり、単価が高い時期の出荷量が増加することにより、農業者の所得増大が期待できる重要な課題である。</p> <p>2. 県中北部トマト生産では、生産者間の収量に大きな差がでていることが指摘されており、県としての栽培指針が確立されて多くの生産者が増収安定することが是非必要である。</p> <p>3. 秋期まで草勢を維持できる栄養管理技術の確立と、新規就農者にも分かりやすい成果のマニュアル化を期待する。</p> <p>4. 植物体内の無機成分の診断方法を確立して欲しい。</p>						

番 号	28-事前-5						
課題名	中山間地域農業の発展にむけた広域連携の展開方向						
課題の概要	農業集落の広域連携の確立に向けた合意形成過程や円滑な運営方法を明らかにし、施策形成のための提言をする。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	2 人	2 人	1 人	1 人	0 人	3. 8
	有効性	0 人	2 人	3 人	1 人	0 人	3. 2
	効率性・妥当性	0 人	2 人	3 人	1 人	0 人	3. 2
	総合評価	0 人	4 人	1 人	1 人	0 人	3. 5
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山県の中山間地域の現状を考えると、是非とも実施して欲しい研究課題である。</p> <p>2. 本研究課題の①内容の目的が異なる経営体をWin-Winになるように合意形成させていく手法、②広域連携モデルの作成手法、③広域連携モデルの運営手法、の具体的な実施方法を明確にして取り組んで欲しい。</p> <p>3. 広域連携、集落営農が他県より少ないのは、意識の差なのか？経営体の問題なのか？組み合わせの問題なのか？それとも他の要因なのか？他の先進的な県の事例を十分に検討し、岡山県における課題を明確にして、広域連携モデルが地域の実態に即したものとなるよう研究を進めて欲しい。</p> <p>4. 最終的な提言を打ち出すことを目的にするのではなく、研究に取り組んでいる過程で、実際に広域連携が進むよう、得られた成果を用いて、研究機関、普及機関、行政機関等が連携して、岡山県内で広域連携の成功事例を作っていくて頂きたい。</p>						

平成28年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番 号	28-中間-1						
課題名	岡山オリジナルフラワーの次世代品種の開発						
課題の概要	これまでにない花色や耐暑性等の新形質を持つスイートピー品種及び様々な花色を持つ付加価値の高いラークスパー優良品種を育成する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成可能性	2 人	3 人	1 人	0 人	0 人	4. 2
	〃 (阻害要因)	2 人	3 人	1 人	0 人	0 人	4. 2
	必要性	0 人	6 人	0 人	0 人	0 人	4. 0
	有効性	1 人	5 人	0 人	0 人	0 人	4. 2
	効率性・妥当性	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	4. 5
	総合評価	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	4. 5
助言・指摘事項等	<p>1. スイートピーにおいては、日本初の種間雑種品種の育成に道を開いた点、世界的にほとんど例のない3種間の雑種個体の育成に成功した点、ラークスパーにおいても青花の1系統と白花の4系統の育成に成功している点等から、本課題は非常に高く評価できる。</p> <p>2. 引き続き、生産者が希望する品種の育成を精力的に進めて欲しい。</p> <p>3. 品種登録申請、実用化が待たれる。</p> <p>4. 生産者から要望の出ている落蕾および高温耐性の品種育成についても、実施して頂きたい。</p>						

平成28年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	28-事後-1						
課題名	水田作における緑肥を活用した低投入型施肥技術の確立						
課題の概要	環境保全効果が期待できる緑肥について、肥効特性を明らかにするとともに、水稲・大豆作における利用技術を確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	0人	6人	0人	0人	3.0
	有効性（効果）	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	有効性（目的以外の成果）	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性（計画）	0人	0人	6人	0人	0人	3.0
	成果の活用・発展性	0人	4人	1人	1人	0人	3.5
	総合評価	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
助言・指摘事項等	1. 緑肥の窒素肥効予測に基づく水稲作用施肥設計ソフト、緑肥の窒素肥効に対応した施肥設計、慣行栽培並みの収量を示す緑肥稲作の実証等、生産者が利用可能な十分な成果が得られたものと評価する。 2. 施肥設計ソフトや「緑肥の活用マニュアル」の生産現場への普及促進の取り組みが重要であり、研修会などで積極的にPRするとともに、施肥設計ソフトが十分に活用されるような環境の整備を期待する。 3. 良い成果が得られており、今後とも研究を進めて頂きたい。						

番 号	28-事後-2						
課題名	大規模経営に対応した効率的な稲作システムの確立						
課題の概要	大規模稲作経営が求める稲作栽培技術とその効率的運営方法を解明するとともに、省力・低コスト化技術を確立し、立地や経営条件に最適な稲作システムを確立する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	0 人	0 人	6 人	0 人	0 人	3. 0
	有効性 (効果)	0 人	1 人	5 人	0 人	0 人	3. 2
	有効性 (目的以外の成果)	0 人	1 人	5 人	0 人	0 人	3. 2
	効率性・妥当性 (費用対効果)	0 人	1 人	5 人	0 人	0 人	3. 2
	効率性・妥当性 (計画)	0 人	1 人	5 人	0 人	0 人	3. 2
	成果の活用・発展性	0 人	0 人	5 人	1 人	0 人	2. 8
	総合評価	0 人	1 人	5 人	0 人	0 人	3. 2
助言・指摘事項等	<p>1. 大規模稲作経営を類型化し、それぞれの経営展開方向を明示するとともに、規模拡大に必要な省力・低コスト化技術を明らかにしたことから、概ね計画通りの成果が得られたものと評価する。更に大規模化が可能になるような研究を進めて欲しい。</p> <p>2. 多収性品種(モミロマン)の生育・収量特性を把握し、有望品種の多収化の方法を明らかにしたことは、農業者の所得増大に寄与する成果である。</p> <p>3. 県南での規模拡大・技術面では大まかに体系づけられたが、中山間地での方向については更に研究が必要である。</p> <p>4. 一軒ごとに異なる農家の実情やニーズ、課題に対応するため、6つの類型に基づきつつ、きめ細かくカスタマイズや提案ができるノウハウを持った指導員の育成も併せて進めて欲しい。</p>						

番 号	28-事後-3						
課題名	ビール大麦「スカイゴールデン」の高品質安定生産技術の確立						
課題の概要	奨励品種採用予定の「スカイゴールデン」について、大規模経営に適用でき気象や生育の変動があっても高品質安定生産が得られる栽培技術を確立し、水田農業の発展に資する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	0 人	3 人	3 人	0 人	0 人	3. 5
	有効性 (効果)	0 人	3 人	3 人	0 人	0 人	3. 5
	有効性 (目的以外の成果)	0 人	3 人	3 人	0 人	0 人	3. 5
	効率性・妥当性 (費用対効果)	0 人	4 人	2 人	0 人	0 人	3. 7
	効率性・妥当性 (計画)	0 人	1 人	5 人	0 人	0 人	3. 2
	成果の活用・発展性	0 人	5 人	1 人	0 人	0 人	3. 8
	総合評価	0 人	5 人	1 人	0 人	0 人	3. 8
助言・指摘事項等	<p>1. 地域適応優良品種「スカイゴールデン」の高品質安定生産を可能とする栽培方法の確立は、水田農業の担い手の農業所得増大につながる成果である。</p> <p>2. 「スカイゴールデン」は広く栽培されており、品質の出来不出来が農家所得に与える影響もそれだけ大きい。所得安定や向上につながるよう、今回確立された栽培法をしっかりと普及、浸透させて欲しい。</p> <p>3. 米栽培の大規模化と併せて、裏作の高品質生産品種・栽培技術確立は今後の農家経営に貢献できるといえる。引き続き、播種時期や天候による細かな施肥技術の向上研究を進めて欲しい。</p>						

番号	28-事後-4						
課題名	「シャインマスカット」の省エネルギー型温度管理体系の確立						
課題の概要	次世代フルーツである本品種の加温栽培による贈答需要期の7月出荷が求められているが、近年の原油価格の高騰によりブドウ加温栽培の拡大には燃料コストがネックになる。このため、高品質化と省エネ化が同時に図られる温度管理体系を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性（効果）	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	有効性（目的以外の成果）	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性（費用対効果）	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性（計画）	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	成果の活用・発展性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1. 省エネルギー型温度管理体系研究は今後増えると思われる加温栽培に弾みがつく研究であり、その中で大粒といえども限界を超える房の大きさ、粒の大きさは糖度低下を助長することを示した点、加温栽培における下限温度の決定により燃料消費が約4割削減されることの証明は大きな成果である。</p> <p>2. ブドウはモモと並び岡山ブランドの主力。今後も、高品質なブドウが安定的に生産できる技術が蓄積されていくことを期待する。</p> <p>3. 糖度を上昇させることができれば、さらに商品価値の高いものとなるので、確実に糖度が上昇する方法を早期に確立して欲しい。</p>						

番号	28-事後-5						
課題名	高冷地域に適した果樹・野菜・花品種の育成・選定と栽培技術の確立						
課題の概要	高冷地域に適した野菜（ダイコン、ニンニク、白ネギ、キャベツ、リーキ）、果樹（ブドウ等）の品種選定を行うとともに、安定栽培技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	有効性（効果）	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性（目的以外の成果）	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	4人	1人	1人	0人	3.5
	効率性・妥当性（計画）	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	0人	3人	2人	1人	0人	3.3
	総合評価	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1. 高冷地に適したブドウ、特産野菜類の品種選定や安定栽培技術に関して多くの成果が得られており、その中にはブランド化への可能性を示す成果もあることから、積極的に普及を推進して欲しい。</p> <p>2. 「ピオーネ」のリレー出荷の最遅出し産地の育成に成果が期待される。</p> <p>3. 高冷地でのブドウの適応性を、引き続き研究して欲しい。</p> <p>4. ニンニクについては水はけの悪い土壌に不向きなのでその辺りの比較が今後重要になる。キャベツは今後も試験継続して栽培増を期待する。</p>						

番 号	28-事後-6						
課題名	促成ナスの日焼け果防止技術の確立						
課題の概要	生産者が低コストで簡便に実施できる方法によって日焼け果の発生を防止し、販売不能果の多発や等級の低下を回避する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	0人	平均点
	目標達成度	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性（効果）	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性（目的以外の成果）	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性（費用対効果）	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性（計画）	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	総合評価	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1. ナスの日焼け果防止技術開発という必要性の高い研究課題において、換気扇の稼働制御、台木の比較および界面活性剤散布により、一定の成果をあげたものと評価する。</p> <p>2. 春先の減収の要因をピンポイントで改善させる技術確立がなされた意義は大きく、今後の生産増へ期待が持てる。</p> <p>3. 界面活性剤が日焼け予防に効果的であることは興味深い成果であり、早期の農薬登録を期待する。また、界面活性剤による日焼け防止軽減のメカニズムの解明も進めば、他の作物への応用も図れる。</p> <p>4. 生産者にとって低コストで取り組むことのできるノウハウとして、積極的な普及に努めて欲しい。</p>						

番 号	28-事後-7						
課題名	堆肥と化成肥料を混合した新規肥料設計技術の開発						
課題の概要	特別栽培農産物等の環境保全型農業を推進するために、耕種農家のニーズにあうよう堆肥に化成肥料を混合し、肥効を調節した新規肥料を設計・開発する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	有効性（効果）	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性（目的以外の成果）	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性（計画）	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	総合評価	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
助言・指摘事項等	<p>1. 意向調査により耕種農家と肥料メーカーのニーズを把握し、用途の異なる3種類の混合堆肥複合肥料を製造し、その窒素肥効特性を解明し、キャベツと水稻栽培で実用化させた本研究課題の成果は、十分な成果が得られたものと評価する。</p> <p>2. 需要者・供給者相互のメリットを追及しながら、様々なタイプの用途別新規肥料を試作した新しい取り組みは、今後に生かされると思う。今後も発展研究をお願いする。</p> <p>3. 他の作物用の肥料も早期に開発して欲しい。</p>						